

平成 22 年度第 1 回川崎市政策評価委員会 摘録

- 1 開催日時 平成 22 年 7 月 2 日（金）午前 10 時 00 分～11 時 30 分
- 2 開催場所 明治安田ビル 2 階 第 1 会議室
- 3 出席者 委員 高千穂委員長、垣内副委員長、水上委員、野口委員、青木委員、余郷委員
事務局 総合企画局 平岡局長
総合企画局都市経営部 鈴木部長
総合企画局都市経営部企画調整課 三橋課長
総合企画局都市経営部企画調整課 南担当課長
総務局行財政改革室 白鳥担当課長
財政局財政部財政課 三田村担当課長
総合企画局都市経営部企画調整課
森田担当課長、鈴木担当係長、中本職員
- 4 議 事
 - (1) 平成 21 年度事務事業総点検及び施策評価の実施結果（速報）について（公開）
 - (2) 施策評価の検証結果について（公開）
 - (3) 施策評価の検証結果の取りまとめについて（公開）
 - (4) その他（公開）
 - ア 試行的検証結果について
 - イ 今後のスケジュール
- 5 傍聴者 なし
- 6 会議内容

議事(1)平成 21 年度事務事業総点検及び施策評価の実施結果（速報）について

高千穂委員長）事務局の説明に対して、御質問等があればお願いしたい。

水上委員）事務事業総点検の評価結果は 97.7%、施策評価結果は 96.6%という高い目標達成率を示しているが、最近の社会経済状況の悪化に伴う社会的な問題の増加と反比例して評価結果が下落するほうが自然だと考える。この点についてはどう考えるか。評価結果が悪い事務事業又は施策の中身をチェックして、来年度の予算を増やすなどの対応を行うことで、事務事業総点検及び施策評価を有効活用できると思う。

森田担当課長）事務事業は、平成 21 年度の予算で決められた事業を達成できたかどうか

かという視点で点検されている。したがって、平成 21 年度中に新たに発生し、解決がいまだに図られていない課題については、平成 22 年度の目標に設定されるので、来年実施する平成 22 年度事務事業総点検の評価結果には反映される。

高千穂委員長) 評価結果に因果関係が出るといい。事務事業総点検及び施策評価の実施結果の中には、社会経済状況の悪化がなければ、より良い評価結果を出せたものも含まれているかもしれない。

青木委員) 例えば、不景気で交通量が減少し、CO2 が自然と減少したことで、CO2 排出量の削減を目標としていた事務事業の場合、より良い評価結果をつけられたものもあるかもしれない。事務事業及び施策全体の達成率だけでは、市民感覚とズレが生じている感があるので、一致するとより良いと思う。

鈴木部長) 役所の仕事は、計画等で事前に決められたことを定型的に取り組むものが多い。評価結果を数字だけで見ても、社会経済状況の変化が反映されていないと感じるが、評価結果を個別に掘り下げてみると違うと思う。評価結果に市民の感覚が反映されるようにすることは課題であり、方法を検討する必要がある。

議事(2)施策評価の検証結果について

高千穂委員長) 事務局の説明に対して、御質問、御意見等があればお願いしたいが、まずは私から意見を出したい。

各委員の評価結果に対する検証結果を見ると、同じ施策評価票に対して「可」と「要改善」というかい離がある判定をされたものが数多くあった。「要改善」は評価票の記入内容が市民に公表したときに誤解を与えるため、説明責任を果たしていないというレベルのものであるが、そこまでではなくても改善の余地があるものが「要改善」と判定されている可能性がある。検証を行う各委員の間で、「要改善」の範囲が広すぎて、明確に修正すべき評価票が選定されにくくなっている懸念があるので、次回の施策評価票の検証の際には、「良」「可」「要改善」の 3 段階の評価から、「要改善」の下に「不可」を加えた 4 段階の評価に変更してみてもどうか。

垣内副委員長) 「要改善」と判定する基準が委員の間で統一されていないと感じている。施策評価票の記入について、年々向上しているが、結果を指標で表すことに

については、まだ改善の余地があると思う。庁内において、施策評価票記入マニュアルを再度周知するなど、積極的に情報共有していくべきだと思う。

青木委員) 施策評価票を読んでいると、課題、概要、目標の流れが分かりにくい。当該年度の目標を立てるに至ったプロセスを明確にし、評価結果を次年度の取組にどのように反映していくのか、より詳しく知りたい。評価票の中に記入している、次年度の取組や今後の方向性は、軽く書かれているものが多い。

野口委員) 参考指標の実績値は逡減しているのに、評価結果に「A」がついており、理由の説明がないものもあった。実績値の変化について、説明がほしい。

余郷委員) 現在の川崎市政策評価委員会における施策評価票の検証は、市民に分かりやすく説明できているかという視点で行っているが、今回報告していただいているものは、どのように取り扱われるのか。

森田担当課長) 各委員からいただいた施策評価票の検証結果について、事務局でとりまとめを行い、委員会で御報告するとともに冊子及びホームページを利用して公表することで市民への説明責任を果たしたいと考えている。さらに、市民意見を募集して、寄せられた意見を委員会事務局にフィードバックすることで、評価制度のステップアップを図ることを目指している。

一つの施策評価票につき2名の委員に検証を行っていただいたが、両委員から「要改善」の判定がされた施策評価票については、現在所管部署に修正の依頼をしている。1名の委員から「要改善」と判定された施策評価票についても、事務局で内容を確認し、修正を依頼する必要があると判断したものについては個別に依頼する予定である。

高千穂委員長) 川崎市自治基本条例17条の中で、評価は、市民の目線で行い、市民に分かりやすく説明し、今後の施策に反映していくとうたわれている。したがって、政策評価委員会では、市民への説明責任が果たされているかという視点で施策評価票の検証を行うとともに、評価結果が次の取組に反映されているかという視点でも検証する必要がある。

水上委員) 施策評価票の記入について、具体例を使って分かりやすく説明するものや指標を適切に用いているものが増えたと思うが、市民への説明責任が果たされていないと感じる施策評価票には「要改善」と判定した。そのようなものは公表前に早めに修正していただきたい。また、今回検証を行った施策評価

票の中には、次年度の取組を意識して記入されているものもあったので、そのような施策評価票には「良」をつけた。次の施策評価の目標は、PDCAサイクルを施策評価票の中で表現するということではないかと考える。

高千穂委員長) 現在の施策評価票の検証のチェックポイントは、課題に対してどのような取組を行ったかという流れが分かりやすいかどうかという視点と、取組の成果について、参考指標を用いて分かりやすく説明できているかという視点で設定されている。指標を使った成果説明が進めば、PDCAがより分かりやすくなると思うが、記入者である所管部署において、「指標化になじまない業務」と言われることが多いので、参考指標は定量的な数値ばかりではなく、定性的な説明で補完されて良いのではないか。今後は、そのような方向の取組も必要と考える。

議事(3)施策評価の検証結果の取りまとめについて

議事(4)その他について

高千穂委員長) 事務局の説明に対して、前の議題についてでも構わないので、御意見等があればお願いしたい。

野口委員) 施策評価票の中で、多種多様な計画名が頻出するが、職員にとっては当然知っている計画でも市民にとっては分かりにくい。川崎市で取り組んでいる主な計画の内容や繋がりが一目でわかる資料があれば助かる。

余郷委員) 「〇〇計画を推進するために、報告書を作成した。」などという取組の中身が分かりにくい評価票も存在したので、改善してほしい。

高千穂委員長) 川崎市の計画がひと目でわかるような全体案内図のようなものがあると良いと思う。ホームページに掲載されているような計画全体概要等を1ページ目につけるのも良いと思う。

森田担当課長) いただいた貴重な御意見は、次年度の施策評価に活かしていきたい。今年度で、第2期実行計画で設定された施策全体の検証を行っていただいたので、次年度は第2期実行計画の総括として、検証を行っていただく施策について、これまで「要改善」と判定されたものを対象として全体の底上げを図るのか、市が積極的に取り組んでいく重点戦略プランに位置づけられた施策を対象とするのか、御意見をいただき、議論させていただきたい。

また、参考指標の設定率は年々上がっているが、施策によっては、例えば基本政策Ⅶ「参加と協働による市民自治のまちづくり」に含まれる施策では、指標化が進んでいないので、参考指標として設定するのに適している指標等があれば御提案いただきたい。